

## 寛永寺：五重塔

五重の塔は、インドの仏舎利塔の東アジア版です。初期の形態の舎利塔には、仏陀の聖なる遺品が収められていました。仏教が 6 世紀に日本に伝来して以来、日本では多層の塔が建てられてきました。国中の寺でよく見られる光景です。上野公園にある五重塔は 1639 年に建てられました。これは、政府の高官であった土井利勝（1573～1644 年）の寄進で建てられた塔に取って代わるものとなり、1631 年に上野東照宮に隣接して建てられました。言い換えれば、初めはこの五重塔は仏教寺院のものではなく、神社の所有物でした。一方この神社は、寛永寺の広大な敷地内にありました。敷地は 1600 年代後半には現在の上野公園よりも広い面積を占めていました。神道と仏教の宗教伝統や建造物の混合は、日本では長い間普通のことと見なされてきました。信条や慣習は江戸時代（1603～1868 年）末まで緊密に結び付いてきたのです。

天皇の主権回復後に設立された明治新政府の指導者たちは、国の近代化を決意していました。固有の宗教である神道を、近代的国家主義の手段として組織化することを目指したのです。1868 年に政府が神仏分離を布告した後、暴力と破壊が起きました。名目上の仏教建造物、像、芸術作品が国中で破壊されました。寛永寺の境内が大幅に縮小したのはこの時のことです。寺はやがて、現在の上野公園の北にある小さな敷地に移されました。上野の五重塔も壊されるところでしたが、上野東照宮の宮司が機転を利かせ、建造物は寛永寺の所有物であり東照宮の一部ではないという公式報告書を提出しました。両者の協力の精神は第二次世界大戦の期間中も続き、五重塔に収められた仏像の保護に神社の神職が貢献しました。移設された寛永寺から塔までは比較的距離があったため、戦後に寺は五重塔を十分管理できなくなりました。1958 年に塔は東京都に寄付され、現在では上野動物園の一部となっています。